

慶應義塾大学大学院 文学研究科 修士課程

仏文学専攻

3つのポリシー

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

教育目標

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、次項の目標とすべき資質・能力を定め、学生が課程終了時までに関の修得を達成するよう、広義のフランス語フランス文学の基本的研究を媒介とした教育によって導く。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、修士（文学）の学位を授与する。

資質・能力目標

- （1）広義のフランス語フランス文学研究の分野において、広範な専門知識を身につけ、フランス語を始めとする外国語を駆使して専門的な研究を推進し、その成果を日本語やフランス語、あるいは他の言語によって発表する力。
- （2）広義のフランス語フランス文学研究の分野において、特色あるテーマを定めて日本語あるいはフランス語によって修士論文を執筆し、そこで得られた独創的な研究成果をもって、当該領域の研究に寄与する力。
- （3）広義のフランス語フランス文学研究を通して異文化の歴史的、文化的特性を分析し、理解していく、異文化リテラシーに優れた研究者、教育者、実務家として、社会に貢献する力。
- （4）広義のフランス語フランス文学を社会の中で学ぶことの意義を問い続け、自ら設定した目標の達成や社会問題の解決を、ふさわしい方法で実践する力。

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

教育課程の編成

文学研究科仏文学専攻（修士：文学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、特殊講義科目と特殊講義演習科目から構成される教育課程を体系的に編成する。

教育課程の実施

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

- （1）修士課程の全在学期間を通じて履修可能な、日本語あるいはフランス語による講義科目と演習科目を設置し、徹底した少人数教育を行う。

- (2) 修士論文の執筆を可能とするため、講義科目、演習科目ならびに指導教員による個別指導を通じ、研究主題についての知見を広めるとともに、研究遂行能力と研究発表能力を養う。
- (3) 講義科目、演習科目のいずれにおいても、フランス語圏を主とする海外の大学院に正規留学できる水準を目標とした、堅実なフランス語運用能力の修得を促進させる。
- (4) 修士論文提出予定者には、提出年度の所定の時期に、大学院中間発表会での発表を課し、自分の論文の進捗状況を適切に把握すると同時に、指導教員以外の複数の教員からも貴重な指導を受ける機会を提供する。

学修成果の評価方法

本専攻の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われるほか、各種アンケートや調査等を含めた定量的・定性的、直接的・間接的な指標を用いて評価される。具体的には、①学生による授業評価、②休学や退学の状況などを用いる。

修士論文審査については、文学研究科委員会によって承認された、主査（原則として指導教員）と2名の副査から構成される審査団による論文審査、さらに審査団および関連教員による口頭試問を経たうえで、最終的な審査結果は文学研究科委員会での審議、判定に委ねる。

資質・能力目標と教育内容との関係

- (1) 広義のフランス語フランス文学研究の分野において、広範な専門知識を身につけ、フランス語を始めとする外国語を駆使して専門的な研究を推進し、その成果を日本語やフランス語、あるいは他の言語によって発表する力。
→多岐にわたる学問領域、時代、ジャンル、対象を扱う講義科目、演習科目を揃え、それぞれの科目でフランス語を中心に据えた研究技能を磨き、さらに一部の科目ではフランス語による授業を行って、フランス語での執筆能力、口頭発表能力を高める。
- (2) 広義のフランス語フランス文学研究の分野において、特色あるテーマを定めて日本語あるいはフランス語によって修士論文を執筆し、そこで得られた独創的な研究成果をもって、当該領域の研究に寄与する力。
→講義科目、演習科目においては、学修のすべてを自分の研究に資するものとするのを促し、同時に指導教員は定期的な個別指導において効果的に指針を与え、また、中間発表会では、他からの評価を真摯に受け止め活用することを意識させる。
- (3) 広義のフランス語フランス文学研究を通して異文化の歴史的、文化的特性を分析し、理解していく、異文化リテラシーに優れた研究者、教育者、実務家として、社会に貢

献する力。

→講義科目、演習科目によって涵養される異文化リテラシーを実地に鍛える最良の場として留学を位置づけ、学内外の各種留学制度に積極的に挑戦して、フランスおよびフランス語圏地域の大学院での単位取得、学位取得を目指すことを推奨する。

- (4) 広義のフランス語フランス文学を社会の中で学ぶことの意義を問い続け、自ら設定した目標の達成や社会問題の解決を、ふさわしい方法で実践する力。

→講義科目、演習科目ならびに指導教員の個別指導によって、専門領域に閉じ籠もらずに、広い視野を持ち、研究を社会での生活から乖離させないことを重要な課題として常に考える習慣を身に付けさせる。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

求める学生像

- (1) 卒業論文執筆や専門科目の履修等を通じて自身の専門領域についての理解を深め、専門とする領域全般についての基礎知識を有している。
- (2) 大学院において何をどのような方法で研究したいのかという研究計画、あるいは専門的な知識やスキルの修得をキャリアにどのように活かせるかについて具体的な計画を自ら考え、まとめることができる。
- (3) 諸言語の一次資料および二次資料を正確かつ批判的に読むことができる基礎的な読解力、学術的内容を的確に論じることができる基礎的な表現能力を身につけている。
- (4) 修士課程修了後の研究者、教育者、実務家としてのキャリアについて、積極的に考えている。

選抜の基本方針

このような入学者を幅広く受け入れるため、一般入試により選抜を実施する。

- (1) 一般入試

専門科目・指定言語科目・選択言語科目の三科目の試験および口頭試問による選抜であり、文学研究科にふさわしい高い学力を要求する。